

ケアタウン小平だより

吉報 5 月の臨時号

東奔西走 「生ききるとは？」

(医) 悠翔会 ケアタウン小平クリニック 名誉院長

認定 NPO 法人 コミュニティケアリンク東京

理事長 やまざき 山崎 ふみお 章郎



2026. 5. 25

「つらくなくてできる治療法があるのならもう少し生きたいのです」

T さんは 50 代後半の女性、大腸がんが両側の肺に多発転移したステージⅣの状態でした。専門病院で約 2 年半に渡る抗がん剤治療（標準治療）を受けましたが改善せず、治療は終了と言われ途方に暮れていました。そんな時、聖ヨハネ会桜町病院で行われているステージⅣの大腸がん患者さんを対象にした「がん共存療法」と名付けた臨床試験の情報を知り参加された方でした。初診時、これまで副作用で苦しんできた T さんは、「つらくなくてできる治療法があるのならもう少し生きたいのです」と言いました。



外来診察中の写真

昨年のだよりでも使用したのですが、再掲します

この臨床試験は、ステージⅣの大腸がん患者でもある私の実体験を基に計画されています。目的は、抗がん剤治療の副作用などで、標準治療から心ならずも離脱せざるを得なかった方や、治療は終了と言われたが、まだ何とかならないのか、とがん治療の現実の前で右往左往する「がん難民」とも言われる方々を支援する方法を探ることです。2023 年 1 月より、日本財団、聖ヨハネ会桜町病院、そして、想いを同じくする医師たちの協力のもとに開始しました。臨床試験の第 1 弾は 2024 年 12 月に終了していますが、2024 年 8 月からは、第 1 弾の途中経過を踏まえ修正した、第 2 弾臨床試験を、第 1 弾と並列し行っています。T さんは、その第 2 弾臨床試験の参加者でした。

外来では笑顔の中に時折不安そうな表情も漂わせていた T さんでした。また、その都度食事の工夫をしながら、副作用のない日々を大切に過ごしている様子を報告してくれました。当初はお一人で通院されていましたが、病状が進行してきた半年ほど前から 20 代前半の息子さんが付き添って来るようになりました。

4 月半ばのある日、T さんは移動用の酸素ボンベと共に、息子さんに車椅子を押してもらい、いつものように笑顔で「よろしくお願いします」とあいさつしながら外来診察室に入ってきました。

した。同時に付き添いの息子さんも笑顔で会釈をしてくれました。

そして、この日の外来が、T さんにとって最後の診察となりました。

生ききる、を選び取れる医療であれ

私は「こんにちは！この1ヶ月いかがでしたか？」と問いかけました。T さんは笑顔のまま私の問いかけには答えずに、いきなり「臨床試験は今日で終了にしたいと思います。今までありがとうございました」と言ったのです。私は思わず「えっ!? よろしいんですか？」と聞き返しました。すると T さんは、優しい笑顔で頷かれました。

確かに、ここ数ヶ月病状は悪化していました。痩せも目立ってきていました。2 か月前には、最後の旅行になるかもと、家族総出で酸素ボンベをつけたまま温泉旅行に行かれたと報告を受けました。遠からずくるお別れの日を備えて、今を悔いなく生きようとしている決意が痛いほど伝わってきていました。

「出来る事ならもう少し生きたいのです」と言いながら頑張ってこられたその T さんが、穏やかな表情でしたがきっぱりと臨床試験は今日で終了にしたい、と言ったのです。そこには厳しい現実の中でも自分の望む人生を十分生き切ったという想いがこもっていました。

私が「本当によく頑張ってこられました。お役に立てましたかね？」と不安そうに尋ねると、包み込むような笑顔で頷いてくれました。そして隣に立っていた息子さんが「役に立っていました」と力強く言い添えてくれました。見上げると、目を真っ赤に潤ませた息子さんが、私を見つめていました。思わず「いい息子さんですね」と言うと、T さんは息子さんを見上げ

ながら笑顔で「世界一の息子です」と言いました。

私は胸の詰まる想いで「今まで臨床試験に参加していただいてありがとうございました。この結果は必ず多くのがん患者さんたちのお役に立ちます」とお礼を伝えながら両の手で握手をしました。万感の想いがこみあげてきて、私は、涙が滲み出てくるのを止められませんでした。これからは在宅で訪問診療を受けるとのことと、在宅医に紹介状を書きました。



外来から二人を見送ったあと、私は「つらくない治療法でもう少し生きたいのです」と希望されて臨床試験に参加し、限られた時間をご自分が納得できるように生き、最終的にはご自分で命の限界を自覚して自ら臨床試験の終了を決めた、この T さんの経過こそが『がん共存療法』の目指すことだったのだ」と、あらためて臨床試験の意味をかみしめたのです。

そして、「がん共存療法」は生命を脅かす疾患に直面している患者とその家族に対して、最期までその QOL※を維持しつつ、自分らしく生ききることを支援する「緩和ケア」そのものなのだ と確信したのです。

※生活・人生の質

その 10 日後、息子さんから「母が自宅で家族の見守る中、安らかに旅立ちました。ありがとうございました」と連絡がありました。T さんは、臨床試験参加後 1 年 9 ヶ月生存されました。標準治療を終了した患者さんにとって、これは予測された予後を大きく超えた生存期間に当たります。いずれ来る「居酒屋ふーちゃん」での再会が楽しみです。



皆さまと共有したい吉報があります

さて、2024年12月に終了しました第1弾臨床試験ですが、その成果の一部を「糖質制限ケトン食、メトホルミン、ビタミンD、エイコサペンタエン酸および他の補完的療法併用下に、低用量S-1で長期生存を得た大腸がん肺転移の3例」という症例報告としてまとめ、2025年8月にその論文を『癌と化学療法』というがん治療の専門誌に投稿しました。

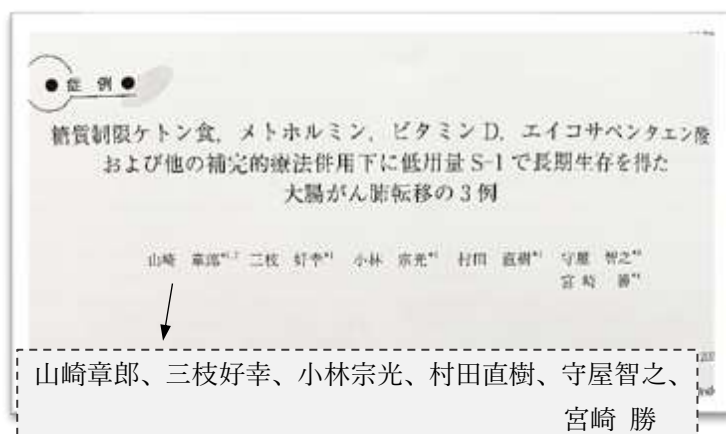
結果、3名のがん治療の専門家の査読を受けたのちに受理され、本年（2026年）5月号（写真）に掲載されました。がん治療の専門家に、一定のエビデンス（科学的根拠）のある取り組みとして認められたのです。これは医学の世界では小さな出来事かもしれませんが、「がん難民」を支援する治療法の確立を目指す者にとっては、大きな一歩になります。

（編集後記）昨年5月、当分使われないことを願いつつ、ご支援への感謝として招待券をお届けしました。たくさんの方からお財布に、引き出しに、仏壇に、「大切にしました」とのお声をいただきました。「亡くなった家族の分」をお求めくださる方も。そのため少し内容を充実させました。開店前※ですが、繁盛することは間違いなさそうですね。（N） ※あちらの世界で開店

現在もそれらの成果を基に計画された第2弾臨床試験に取り組み中ですが、ここでも手ごたえを感じており、いずれは論文としてまとめ発表したいと考えています。多くの支援者、臨床試験に患者として参加して下さった皆さまに心より感謝する次第です。

しかし、実際の臨床現場で、この治療法を望まれる患者さんたちの要望に応えるためには、まだ様々なハードルがあり、現時点でそのご期待に応えることは出来ません。すぐにお力になれず、申し訳ありませんが、ご容赦ください。

最後になりましたが、ケアタウン小平チームは、皆さまのご支援を受けながら、今日も「住み慣れた街で、最期まで生きて逝きたい」と望む方々のお役に立てればと、一心になって活動が続けています。これからも前を向いて歩いていきます。なお、ご心配おかけしておりますが、私は元気です。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



居酒屋

ふーちゃん

ご招待券



コミュニティケアリンク東京の活動にご協力ください

当 NPO 法人ではよりよい活動を展開していくため、皆様からのご寄付をお願いしております。ご寄付をいただいた方には「ケアタウン小平だより」等、各種活動のお知らせを送らせていただいています。

①郵便局からの払込の場合…

口座記号番号 0 0 1 0 0 - 1 - 2 7 9 4 8 9

加盟者名（特）コミュニティケアリンク東京

②銀行・ネットバンキングからのお振込の場合…

ゆうちょ銀行

店名 〇一九店（ゼロイチキューウ店）

口座 当座） 0 2 7 9 4 8 9

名義 特定非営利活動法人

コミュニティケアリンク東京

認定 NPO 法人への、3,000 円以上の寄付・賛助会員費は、確定申告にて寄付金控除が適用されます。

寄附金の最大 50%の税額控除が受けられます。（所得税のほか、住民税を含めた場合）

☆所得税の税額控除方式なら

（寄附金額-2,000 円）×40%＝税額控除額

☆個人住民税

（寄附金額-2,000 円）×10%に相当する額

※対象寄附金額、控除額には上限があります。

詳細は事務局又は国税庁ホームページを確認ください。

【お願い】

払込用紙ご利用の際は通信欄に「寄付金として」と明記ください。

銀行振込やネットバンキングを利用した寄付の際は、ご氏名・住所を NPO 法人事務局へメールまたはお電話いただけますと大変助かります。よろしくお願いいたします。

✉ linktokyo-jim@w7.dion.ne.jp

☎ 042-321-5985

ねほり・はほり・ふかほり

この人たちは、だあれ？



訪問したご自宅やホスピスにて

ご来店の際にご利用ください。

全席眺めは◎ですが、いい席をご用意いたします。開店はもう少し先の予定です。



**本券の有効期間【いつまでも】
& 何名様でも**

↑ P3 の棚の上に置かれている写真額

米国の精神科医で『死ぬ瞬間』の著者 E.キューブラー＝ロスさん（左）と近代ホスピス運動に大きな影響を与えた、英国の聖クリストファー・ホスピスの創設者 シシリー・ソンドースさん（右）です。既に故人となったお二人ですが、山崎医師にとって今なおその背中を追いかける存在であり続けています。左 41 歳、右 44 歳の時。ヒゲが目立ちますね。